

(コーディネーター)

事業番号 3 番、車両管理事業につきまして、作業に入らせていただきます。

事業内容につきまして、要点を簡潔に所管課の方から 5 分程度で説明をお願いしたいと思います。

(説明者)

それでは、この事業の内容について簡単にご説明させていただきます。

市役所が行う業務には、車両管理等の内部的な事業ほか、医療・福祉・子育て・環境・下水・道路・教育・文化の分野など、市民生活に密着した広範囲で多種多様な仕事が数多くあり、市役所にはそれを担当するさまざまな課があります。市を取り巻くこれらの色々な分野では、日々の快適な市民生活を確保する為、職員が自ら地域へ出向き市民のお宅や関連施設、工場現場等に出向くことが多く、その際、公用自動車は必要不可欠な移動手段となります。そのため、毎日使用する公用車については、日常の安全運転が確保されていることが重要です。

そこで、安全運転を確保する全般的な責任は、事業主である市にあります。市では多種多様の仕事を行っていることから、安全運転にかかる責任のすべてを直接果たすのは難しいのが実情です。安全運転管理業務は車両を運行することを主たる目的とするバスやタクシー、運送会社等で特に重要な業務になりますが、自治体においても同様、業務の一部として運行する車両について、運転日誌により各運転者の運行状況を把握し、運転する職員について無理な運転がないかどうか、運行状況を把握しておく必要があります。

そこで、道路交通法では、一定数の車両を業務に使用する事業所等では、会社や自治体などの最高責任者の内部者として安全運転管理者やそれを補助する副安全運転管理者という責任者を選任し、公安委員会に届出をし、運転者の適性や健康状態を把握することが定められており、また、道路運送車両法に基づき、自動車の日常点検や整備を行うことが義務付けられております。枚方市では、管理業務の単位として、仕事の内容や分野ごとに必要な車両台数のうち、総務部や土木部、下水道部等、部ごとに安全運転管理者、副安全運転管理者を置いて、管理業務の適正化を図っております。

次に、本事業のコストについて、ご説明します。この車両管理業務に直接従事している職員は、平成 22 年度は前年度の 3 名から 1 名減員し、再任用職員 1 名、非常勤職員 1 名の計 2 名で従事しております。これにかかる人件費は、予算ベースになりますが、1 名減員したことで、平成 22 年度の当初予算は前年度の約半分の 624 万 4,000 円です。

次に、事業費の中の直接的経費の内訳としましては、平成 21 年度の総額は 4,650 万円、平成 22 年度は 3,823 万 7,000 円で、前年同比で約 82%になる予定です。平成 21 年度の直接経費は 3,310 万 1,000 円で、内訳を 16 ページの一番下に記載しているとおりですが、金額の大きいものから、保険・燃料費 1,836 万 9,000 円です。次に、車両購

入費として1,054万1,000円、次に車両の点検整備、修理、車検などの車両管理経費として419万6,000円です。財源内訳としましては、基本的に市の一般財源ですが、平成21年度にはその他として705万1,000円とありますが、地域活性化・経済危機対策交付金事業のメニューの1つ、地球温暖化対策として、低公害車8台を購入したものです。

次に、活動実績として、公用車の保有台数、公用車の1日当たり平均利用回数を記載させていただいております。公用車の保有台数は、現在、市にはごみ収集車等を含め全部で380台の車両がありますが、総務管理課が管理している車両は72台です。公用車の1日当たり平均利用回数ですが、同一の車両を同日に利用した平均利用回数になりません。

おそれ入りますけれども、資料の訂正を1件お願いいたします。平成22年度の見込みを1.5回としておりましたが、再度、計算いたしますと、平成20年度・21年度同様、1.3回という見込みになりますので、訂正の方よろしくお願いいたします。成果目標としましては、環境負荷の低減を図りながら、公用車両の管理にかかる経費削減を努めて参りたいと考えております。

事業の自己評価は、人件費につきましては、平成22年度に職員1名削減したことで前年度の約半分となる予定です。現在、計画的に買い替えを進めているところですが、未だ登録年度の古い車両も多く、故障対応や1年点検に要する時間も長く、安全性を確保しながら、さらに直接経費の削減を進めたいと考えております。

また、今後の方向性としては、今年度には公用バイクの導入を予定しており、トータルの管理台数が増加する中、安全性の確保と稼働率の確保を図りながら、直接的経費の節減につなげるよう、他市の事例を参考にするなど、研究、検討を進めてまいりたいと考えております。

最後に、比較参考値として他市の事例を記載させていただいております。19ページの追加資料にもありますが、大阪の北西地域、豊中市、池田市、箕面市などはリースを進めておりますが、こういった事例も参考に、本市における有効性について検討、検証させていただきたいと考えております。

以上です。

(コーディネーター)

ありがとうございました。それでは確認をさせていただきたいと思います。

まず、従事した人数が21年度から22年度にかけて1名減で来ておりますけど、正職員さんは8時間勤務ですよ。非常勤職員さんは同じく8時間勤務ですか。

(説明者)

はい、再任用職員になります。普通職員でしたら7.75になるんですが、再任用の場合でしたら、それよりも時間は少ないです。

(コーディネーター)

例えば7時間とか6時間とか。4分の3勤務やってるとか。

(説明者)

1週間の内で31時間です。

(コーディネーター)

31時間勤務と。すると非常勤さんは8時間。

(説明者)

再任用と同じ。

(コーディネーター)

なるほど。そうすると21から22年度にかけては随分人数が減った、いわゆる従事する時間が減ったわけですが、これで適正に管理出来ているということは、21年度とか20年度は過配、要は多く人を配置していたので減らしたということですか。それとも何か効率化したから減らしたということですか。

(説明者)

車両管理上の業務内容は、20年度から22年度までかけまして、特段変わってはおりません。1人減ったことについてですが、これは全庁的な取り組みということで、行政改革、これは、全庁的に減員していくという、職員を減らしていくという成果です。

(コーディネーター)

それはいいと思うんですが、何かの手法をもって1人減ったとかじゃなくて、単純に減らすことで業務が回っていったということなんでしょうか。

(説明者)

現実的には1名減ったという中で、十分というのか、やってる状況です。

(コーディネーター)

わかりました。何かご質問ある方、お願いします。

(仕分け人)

職員の方の話が出たんですけど、この2人の方というのは車の整備とかそういったこ

とをされているんですか。

(説明者)

車ですので、専門的な整備までには及ばない形になるんですが、日常点検であるとか、簡易な整備は日常行っております。

(仕分け人)

車の台数の妥当性についてですが、職員数、枚方は2,000人位いらっしゃるんですね。380台と、5人に1台くらいの感じですけど、他の市は大体職員の数に対して車はどれくらい、要は、1台当たりに職員何人、逆でもいいんですけど、そういう比較で車の数が多いかどうかということをお伺いしたいのと、それともう一つは、公用バイクを導入して車を減らしていくということはいいことだと思うんですが、併せて、例えば公用の自転車を増やしていくとか、バスの利用を推進するとか、例えば2km未満の移動はなるべく自転車にするとか、そういうことをやっている自治体は他にありまして、それで公用車を減らすことに成功して、職員も1km、2kmだったら意外と自転車の方が気持ちいいというところもありますので、もっと車を減らす手段、バイク以外にも考えた方がいいんじゃないかなど。数が減れば当然管理業務のコストが減りますから、バイク以外に自転車の導入、あるいは、バスの利用を推進する、そういう代替的な手段の検討はどうかさってるんでしょうか。

(説明者)

一番先にご質問いただきました、各市の保有台数との関係は、後ほどご説明させていただきますが、先に環境に関する部分につきましては、枚方市は環境にやさしいということをまず市を挙げまして。

(仕分け人)

コストのことですので、環境は無視していただいて結構です。ただ、公用車よりも自転車の方が安いのは間違いないと思いますので、そういう代替的手段をどう考えるのかということですね。

(説明者)

これまでもバイクであるとか、自転車というのは公務の中で一部として使ってきているというのは実態としてございました。今回電動バイクということで今年入れる予定にしておられるわけなんですけど、その辺でのコスト、費用対効果というのは、今、具体的にはお示しすることが出来ないわけですが、運用の中で一定、将来的効果を示していきたいというふうに考えております。

(仕分け人)

例えば、公用バイクを 20 台導入したら車は 2 台は減らせるとか、そういう計算はないのでしょうか。

(説明者)

現時点では、車に相当するバイクを何台入れたら何台減るということは、結構難しいところがございまして、これまでも試算をしたことはあるんですが、なかなかバイクでしたら天候にも影響がございまして、この辺は運用の中でという形で申し訳ないですが。

(仕分け人)

私も昔、車両運行担当の仕事をちょっとやっていたんですけど、当然 1 日に 1.3 回という平均利用回数があれば、1 日当たりの走行距離とかも分かると思うんですけど、例えばどのくらいの移動に使っているという数字はあるのでしょうか。

(説明者)

1 回当たりの走行距離なんですけど、平均で今年度分ですけど 15.3 km、約 1 台当たり 1.3 回を掛けますと、約 1 日当たり 20 km という走行距離になります。

(仕分け人)

総務管理課としての管理台数というのは 72 台だと思うんですが、枚方市全体で 380 台ですかね、これは両方わかるかどうか別にして、年間にかかっている任意保険料というのはいくらくらいですか。

(説明者)

全部でかかっている費用は 743 万 2,000 円です。これは平成 21 年度です。

(仕分け人)

それ 380 台分ですか。

(説明者)

はい。380 台分です。

(仕分け人)

実際保険を申請されて、ここ数年でも結構ですから、保険金の支払いというのはあり

ましたか。

(説明者)

ちょっと金額的には調査しておりますけど、実際に公用車事故がございまして、保険から下りているということがございます。ただ、自賠責で済んでいる部分がほとんどという認識を今しております。詳しくは今調べております。

(仕分け人)

ぜひ、資料化していただきたいんですけど、なぜこんなことを聞きたいかといいますと、他の自治体も含めて、公用車が交通事故を起こしたり、賠償責任が発生するというケースが非常にレアでして、しかも起こった場合にも自賠責等でカバーできる部分が大半だったりすることが多いんですよ。今、年間 743 万円と言われましたね。10 年間で 7,430 万円、20 年間で 1 億 5,000 万円ほどのお金が保険料として消えていってるんですね。20 年間で市が交通事故等で 1 億 5,000 万円も賠償することが起こると思いますか。

(説明者)

これまでの経過を考えましたら、そういったことはなかったと思います。

(仕分け人)

ないと思いますし、あつてはいけないと思うんですね。このお金を交通安全とか、運転者の意識向上とか、そういうところに一部を、ある企業なんかですと、保有台数がすごく多くてもっと何十倍という任意保険料を実際にはかけなくてはいけないけど、かけないで最初の予算化しましたら、ある程度の金額になるともうプールしてしまって、いわゆる事故対策費として運用しているようなところもあります。行政というのは、単年度のものなので、そういうプールして運用というのは大変かもわからないんですけど、少し考慮するのに十分な金額なのではないかなというふうに思います。

(説明者)

先ほどご質問いただきました、各市の職員割りでのお答えをさせていただきます。資料の 19 ページをご覧ください。他市の状況ということで、北河内他市の状況の中に守口市から交野市までの保有台数が書いてありますが、それを職員当たり平成 21 年 4 月 1 日現在になりますけど、割った数を申し上げます。守口市 11.5、寝屋川市は 7.5、大東市は 9.2、門真市は 6.5、四條畷市は 8.9、交野市は 3.7、枚方市は 7.0 になります。

(仕分け人)

リースと買い替えについてお聞きしたいんですけども、どのような判断で買い替え、新車で購入するところからリース契約にシフトしたのかという理由をお聞かせ願えますか。それと、具体的なリースの契約内容、どんな形でリース契約をされているか。それと期間が結構、7年間契約ですか、この資料を見ますと7年間の資料ですので、7年契約のリースというふうに見受けられるんですが、実際その年度を教えてください。

(説明者)

すいません。資料の方が不親切であったと思うんですが、リースの方がまだ枚方市の方ではまだやっていないです。こちらで示さしていただいている表は、あくまでもこれをリースに置き換えたという場合の金額を右に示させていただきまして、7年度の計画に基づいて、買い替えを行ったとすれば、この金額になるという形になっております。

(仕分け人)

そうすると、将来、今年度、来年度に向けてはリース契約にシフトしようとする方向で考えておられるんですか。

(説明者)

現在のところ、枚方市は買い替え基準という基準を設けておりまして、それに基づいて順次、買い替え方式で買い替えているというのが現実でして、他市の近隣市であるとか北摂の方とか見てみましたら、実際にリースが多くなっているところが結構あります。この比較表に書かせていただいているんですが、リースの方がやはり金額的には多いというふうな表現になってしまっているわけですが、ただ金額が高いだけでリース化は進めてないと思うんです。何らかの合理的な面があつてということなので。ただ、他市の状況も踏まえまして、今後、リースというのも最近の流れということもあります。検討していきたいなという形です。

(仕分け人)

リース化の流れはいいんですが、高い費用にするのに何の根拠もなくそちらに持つてくというのは、どうも説明になってないという気がするんですけど。例えば、他市は別として、枚方市でこの違いがあるけども、リースにすることによってこういうメリット、例えばそれにかかる職員の人件費が減るとか、そういう検証はされたことがないんですか。

(説明者)

はい。現時点では数字的な検証というのはまだ行っていません。客観的な数字というところで書かせていただいているんですが、ここでは33万円ほど高くなっているんです

が、ただ、車両を購入したときでの自動車税であるとか、各種保険であるとか、一時的に多額な費用が発生すると。購入後も経費管理であるとか、維持補修管理、安全運転管理であるとかこういったことも、若干多くの手間がかなり必要になっております。メンテナンス付きのリースというのもありまして、リース化することで市の本来の業務に専念して、また経費節減であるとか、経営分担効果を上げやすい、その辺の程度で、金額的なところにつきましては、今後、数値化して検討していきたいと思っております。

(仕分け人)

是非、導入するならばやはりそういう効果の検証をしないと、リース化の流れだからという中でやることは、それは決して市にとって良いことではないと思っております。実際に、この表を見ると何がいいかという、経費が平準化されて毎年同じだけ払うというそれはわかるんです。ですからそれによって例えば職員の負担が減るだとか、人件費がこれだけ減るだとかという効果を出さないと、それを選ぶ理由にならないと思っております。

(仕分け人)

意見になるんですけど、そのリース契約を結ばれる際に、リースに気を付けていただきたいのは、どうしても企業でそうなんですけど、借り入れと同じということで、債務になってしまうということが非常に大きな問題点だろうと思うんです。そのところを注意していただきたいということと、私の考えで言いますと、リースというのはどちらかという、特殊車両の方にされた方がいいんじゃないかと思っております。特殊車両と言うのは非常に高価になりますし、それは借り入れ効果と同じような形でされるのであれば、特殊車両に採用された方がいいというふうに考えております。

(仕分け人)

2番の全体で380台ほどあるという、保有72台、総務管理課の方で管理されているのも含めて全部で380台ということがありますが、このうち特殊車両というのは何台あるのでしょうか。

(説明者)

全体380台の中で、一般的な車両はそのうち130台、特殊車両になると250台です。

(仕分け人)

例えば、130台を一括して集中管理するとかということは考えられてないんですか。

(説明者)

冒頭でご説明させていただきましたように、適正な管理範囲というのがあると思うん

です。枚方市は多種多様な業務もございまして、土木であるとか、建築関係とか、そういった業務に必要な台数であるとか使用目的がございまして、各々その部局ごとに安全運転管理者、副安全運転管理者を定めさせていただいてます。そこで一定必要台数というものも含めて、適正な管理の単位であるというふうには考えます。

(仕分け人)

今こちらの方では、2人の方が72台の日常点検や安全管理をされているということですが、それ以外の部署についてもそれぞれ車を持っていらっしゃるのであれば、そういう管理をされたりというようなことも必要になってくるのではないかと思います。使われるのは、それぞれ業務に応じて毎日定期的に市内を回られているとかいうところもあると思いますが、それぞれ車を持っていたら、点検とかにかかる費用というのはそれぞれかかってくるのではないかと思います。そういう安全点検とか、使用するものは別にしても、例えばそういうような日常の管理、点検とかというのは、まとめてされた方が経費の削減にもなるのかなというふうにも思いますし、それぞれ車が常に出ているというふうにも思われなふしもありますので、例えば、予約システムなどもあるという風にお伺いしているんですが、もっと集中管理をしたりすれば、もう少し台数自体を減らして、うまい具合に活用できるのではないかなと思います。その辺はどうお考えですか。

(説明者)

ご指摘のとおり、集中と分散というのは、確かに業務の効率化ということで重要なラインになってくると思います。共通で安全性の確保をした上で、共通すべきところは共通、分散すべきところは分散、この辺、めり張りを付けて管理していくというのも車両管理で必要だと認識しております。

(仕分け人)

先ほど、他市との比較ということで、車両に仕えた職員数を比較すると、守口市10.5は非常に多いとしても、せめて寝屋川市と四條畷市のレベルの1台あたり9名くらいまでは努力していけるのかなと、今1台あたり職員数7名ですから、それくらいのベンチマークを目標にして減らしていけば、私の手計算では300台くらいまで減らせることになります。そういう台数を減らす、せめて今いくつかあった市の、ややパフォーマンスのいいくらいまでは合わせられると思うんですけど、そういう方向にはいけそうでしょうか。

(説明者)

その前に、それぞれの市の面積というのが異なるので。

(仕分け人)

それはもちろんわかりますけども、別に北海道のナントカ市と比べてるわけではなくて、同じ大阪の比較的人口の多いところだと思いますので、そんなに人口密度がものすごく違うとは思えないんですけれども。

(説明者)

そういうふうなものもあって、台数が異なったという認識はしております。今おっしゃられたとおり、先ほど課長が申し上げましたとおりなんですけど、効率的な運用というのが我々どうしてもやっていかなければならない、減らすことは最終目標というか減らすことは大事だと思うんですけど、やはりその事業と必要な台数のバランスというのは軽自動車とかですね。

(仕分け人)

他の市町村もやっぱりそこは考えてらっしゃると思います。その上で減らしている努力をしている。

(説明者)

それは自転車とかバイクとかも導入しながら、その効果を測りながら、目標としては減数ということを目標に、今後は調整してやっていきたいと思います。

(仕分け人)

先ほどの議論を考えながら、数字の確認なんですけど、集中管理しているバイクの台数、自転車の台数を教えて下さい。

(説明者)

バイクの場合には現在、市の車両としては保有してございません。自転車についても公用的な利用は認められるものの、市として集中管理はしていないというのが現状です。

(仕分け人)

今後、この72台をリプレースしていくというような考えはあるのでしょうか。

(説明者)

現時点では、この団体に対して何台を削減するという数字目標も持っておりませんし、今後、運用の中でこれまでの車両の稼働率がどう変化していくかということを見ながら、減車の方にも可能な限りつなげていきたいと考えております。

(仕分け人)

見ながらとおっしゃいますが、集中管理システム、追加資料で16年からグループウェアでやっている。稼働率も十分データ蓄積があると思うんですが、あとはやり替えのなんかだと思っんですが。これを拝見すると、リースか買い替えかという議論以前に、車両ですと確かにコストが大変かかるんですけど、バイクあるいは電動自転車になってきますとバイク以上に非常にその辺の規制も緩いわけで、相当コストカットになるはずなんですけど、その辺は決断はできるんじゃないかと思っます。

(説明者)

手持ちの数字があまりお示し出来なくて、説得力のないお話で大変申し訳ないんですが、今後導入していく、集中管理していこうというバイクの台数は今持っておりまして、不確かな内容で申し訳ないんですが、効率的な適正な台数にしていきたいなと考えております。

(仕分け人)

市が保有台数380台中130台が普通の乗用車ですが、130台の1日当たり平均利用回数は1.3を上回っていますか、下回っていますか、いくつでしょう。

(説明者)

今ご質問ありましたように、1.3回というのはあくまでもうちの所轄の72台分はデータ的に取れたんですけど、その他についてのデータの蓄積、利用回数等は今うちの方でやっております。

(仕分け人)

そうすると、集中と分散の最適化ということが全然測れてないという判断をせざるを得ないんですが、そう判断してよろしいでしょうか。

(説明者)

現時点でそうご指摘いただいたとおりで思っます。

(仕分け人)

この資料を見せていただきますと、盛んにリースと買い替えの比較ということで、出ているようですが、他市については、かなりリースの契約が増えていると思っます。例えば枚方市も集中になったときに、こういうときに保険なんかを一括的に委託して使っていく。その中で車の管理にも人件費がかかる、それから現在の駐車場もかなりの管理

費、経費もかかると思います。そんな中で、リースに変えていくことによって、今の駐車場も有料で貸しながら、減らしていくということによって、かなり経費も減ってくるんじゃないかな。やはり、リースにすることによって車の管理、駐車場の管理、例えば配車の管理、納入の管理から、みんな省けてくると思いますので、リースのことも考えていただき、今の駐車場もかなり広い駐車場がございますから、あれも有効的に使っていただきたいなと思います。

(説明者)

今ご指摘いただいた内容ですが、例えば車両の資産を含めて民間が持つ、また敷地も含めて民間に持ってもらって運用してもらう。枚方市が必要なときに借りるというお話になるかと思うんですけど、その辺も一定有効な方法ということもありますけど、色々他市も色んな取り組み、経費節減の関係を行っておりますので、色んな方法の中で今後も検討していきたいなと思います。

(コーディネーター)

それでは、評価シートをそれぞれ配っていただきたいと思います。
この車両管理事業について、市が行う必要がないときは不要になります。今あったご意見のようにすべて民間に委託した方がいいんじゃないかということであれば2番。ないかもしれませんが、例えば、他の市と同じ共同で管理する場合には広域になるかもしれないし、現行で内容についての見直しが必要ならば3番の要改善、現行通りなら4番ということになります。それでは評価をお願いしたいと思います。

(仕分け人)

その前にちょっとお伺いします。例えば管理業務、この職員さんがやっている管理業務だけを民間委託するとかという方法の検討というのはされたことはありますか。

(説明者)

何回かそういった話はお出ておりますが、具体的に進める話まではいっていません。それも当然視野に入れていく時期にも来ていると思います。

(仕分け人)

先ほど正職員さんがなくなってという話が進む中で、もともと多かつたんじゃないかという話をしたんですけど、そうでなくて本当に必要な人員がちゃんと配置されているかどうかという検証がされているかという話なんです。例えば、このように再任用職員でやっていくというケースもあるし、正規の職員を置くってケースもあるし、例えばすべてを民間にという方法もある中で、これが選ばれたということだと思えます。本

当に必要な検証というのはやっぱりされてないのかなという印象を受けています。もう少し、せっかく管理課の中でやっていますので、このデータを基に土台を、という感想を持っています。

(コーディネーター)

それでは、仕分け人の皆さんで評価を行いたいと思います。

車両管理事業について、1番不要(0名)。2番①民間(0名)。2番②国・府・広域(0名)。3番枚方市・要改善(6名)。4番枚方市・現行通(0名)ということで、枚方市・要改善という結果になります。

それではご意見を伺いたいと思います。

(仕分け人)

先ほども申し上げましたが、リースがすごくいいというふうには私は思わないので、意見になりますけど、大きな話になりますが、どうしても市とか導入しているのは少ないんですが、複式簿記を採用しておりませんので、リース債務というのが計上されにくいので、レンタルとリースの違いがはっきりと指示されていないというところもございませぬので、リース導入するのは非常に良いことだろうと思いますけど、慎重な判断をお願いしたいと思います。

(仕分け人)

枚方市の場合、地形的な問題もあって、市役所周辺だとか津田地区の方だとか長尾地区だとかもつと奥の方だとか、色んな利点もありますし、また、公用車というのは走っていると目立ちます。白い地味な車で枚方市と書いてあるだけで、最近は黄色いステッカーが貼ってあったりして、子ども110番だったりして、そういう色んな複合的な効果もあるので必要な部分もあるでしょうけど、特に中心部のこの近辺の色んな分庁舎とかの往復に乗用車は必要ないと思うので、その辺りは改善をしていただいて、集中管理もコストがもう少し安くなるんじゃないかと思うので、検討していただきたいなと思います。

(コーディネーター)

ありがとうございました。

それでは今、皆さんからこういった意見色々ありましたけど、この資料を見ていくと、やはりデータ分析がしっかり行われていないということで、費用対効果の検証はなかなかしにくかったというのがあります。そこをもう少ししっかり整理していただく中で、例えば、車の台数はこれでいいのかとか、実際に運行、保管していくニーズがこれで適正なのかという判断がなかなかしにくかった。資料の中で判断していくと、今あったよ

うなご意見があつて要改善という結果になったんじゃないかと思います。班の結論としては枚方市・要改善ということで終了させていただきたいと思います。

それでは、事業番号3番、車両管理事業につきましては、今までの議論を踏まえまして、もう一度見直しをしていただこうかなと思いますので、よろしく願いいたします。

これをもって終了したいと思います。ありがとうございました。